

190. 子供と潮干狩り

技術戦略部調査役（土木・建築） 岩野多恵

地域のバスツアーに参加し、小学生の子供と一緒に千葉県富津海岸に行ってきました。東京湾に面した富津海岸には、漁業協同組合が管理する潮干狩り場があります。入場料は、大人 2000 円、子供 1000 円で、それぞれ 2kg、1kg 用の網袋に入る分だけ持ち帰ることができ、それ以上持ち帰る場合には追加料金がかかります。

潮干狩り場の砂の表面をちょっと削っただけで、アサリやハマグリがでてきて、2 時間の滞在時間で網袋いっぱい採ることができました。帰宅後は砂抜きをして、味噌汁にして食べました。

ところで、『からすのパンやさん』で知られる絵本作家の加古里子氏が昨年亡くなられましたが、遺作は『みずとはなんじゃ?』という絵本でした。この絵本は、身近な生活における水との関わり、水の性質、水の働き、水と地球の関わり、そして、海や川を汚さないようにして水を守っていこうということが、加古里子氏による文と、鈴木まもる氏による美しい絵で書かれています。子供は、この絵本を読んで、水がないと生きていけないことを知り、子供なりに水の大切さについて色々考えたようでした。

今回の、子供と一緒に海の中の生き物を採り、その後、調理して食べるという体験は、水の大切さを直に体験できる機会でもありました。なにより、水辺空間にいと、それだけで気分がよくなります。楽しい春の一日を過ごすことができました。